

特集 異常気象に対応した栽培技術

気候の温暖化等に対応した栽培技術

近年の温暖化や、燃料代の高騰は作物の栽培に様々な面で影響を与えている。秋期での高温はイチゴでの花芽分化の遅れや、ハボタンの着色不良をもたらしている。クリでは暖冬化による休眠の遅れに伴う凍害が問題となっている。また、冬季

の燃料を節減した栽培技術も、今後の重要な課題の一つである。この特集ではこれらの課題に対応した取り組みと、その研究成果を紹介する。

吉田 晋弥（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

低温期に生産性の高いトマト台木品種の選定

近年の原油価格高騰対策として、低温管理でも収量及び果実品質が安定するトマト台木品種について検討した。その結果、外観及び食味から「スパイク」が、収量性から「スパイク23」が優れていた。

内容

台木品種として「スパイク」「スパイク23」（以上愛三）、「影武者」「グリーンガード」（以上タキイ）を供試し、2011年9月5日に播種した。穂木品種はいずれも「優美」（丸種）を用い、9月6日に播種した。同月23日に接ぎ木し、最低夜温を通常8℃のところ、5℃に設定したガラスハウス内に10月13日に定植した。栽培方式は少量培地耕とし、株間30cmの1条植え、主枝1本仕立、5段摘心とした。

「スパイク」は糖度、リコピン含量が高く果実品質が良好であり、食味及び外観の評価も高かつ

た（表）。

「スパイク23」は玉太りに優れ、また小果やチャック果の発生が少ないため正常果率が高く、収量性に優れていた（表）。また、草丈及び茎径が大きく、樹勢がやや強くなる傾向がみられた（データ略）。

今後の方針

品種の更新に合わせて随時試験を継続して実施すると共に、県ハウストマト研究会及び普及指導員研修等を通じて現地への普及を図る。

渡邊 圭太（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2423）

表 低温期に生産性が高いトマト台木品種の特性

台木品種名	収量及び異常果 ¹⁾						果実品質 ²⁾		食味 ³⁾				
	全果重 (g/株)	正常果 率 (%)	異常果率(%)				糖度 (Brix:%)	リコピン (mg/100g)	外 観	硬 さ	甘 さ	酸 味	総 合
			小果	チャック果	空洞果	裂果							
スパイク	2,529	79.0	6.3	4.5	9.3	1.1	5.4	10.0	3.2	2.7	3.4	2.8	3.2
スパイク23	2,913	81.1	4.6	3.5	8.7	1.4	5.0	8.1	2.8	2.6	2.4	2.8	2.5
影武者	2,679	74.4	7.5	4.1	11.5	2.2	5.0	7.9	2.8	2.8	2.8	3.5	2.8
グリーンガード	2,241	74.9	8.4	5.3	7.0	1.9	5.3	9.1	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0

1) 収穫期間:2012年1月10日～2013年4月26日

2) 2012年3月15日に北部農業技術センター農業・加工流通部が調査、それぞれ第3花房の果実を対象とし、果実糖度は屈折糖度計にて各段4果ずつ測定

3) 2)と同日調査、グリーンガードを標準とし、1(弱い・悪い)-3(同等)-5(強い・良い)で官能評価